



平成19年度つくばマイスターフォーラム

2008

平成20年3月1日、筑波大学大学会館 総合交流会館
主　　催：筑波大学現代GP
　　「新しい課題対応型体験学習プログラムの開発」運営委員会
共　　催：つくば市
後　　援：つくば市教育委員会
参加者数：134名

平成19年度つくばマイスターフォーラムでは、本年度実施された「食と緑のマイスター育成講座」受講生の課題別学習がポスターとして展示され、見学者に発表された。また、「美と芸術のマイスター育成講座」受講市民および学生の作品やレポートが展示され、石井コレクションギャラリーでの作品解説（ギャラリートーク）が行われた。さらに、「食と緑のマイスター育成講座」では平成20年度受講希望者への個別指導が実施され、申し込みの受付が行われた。

現代GPの3年間の活動のとりまとめとして、「大学から地域へ、地域から大学へ！市民と作る大学教育」と題したパネルディスカッションが開催された。パネリストとして飯野哲雄氏（つくば市市長公室長）、東原孝規氏［食と緑のマイスター育成講座（雑穀コース）市民］、田淵多江子氏［美と芸術のマイスター育成講座（書コース）市民］、田中彩重子氏［食と緑のインターンシップ（雑穀コース）学生］、塩川真理子氏［美と芸術のインターンシップ（書コース）学生］、林　久喜准教授（生物資源学類）、斉藤泰嘉教授（芸術専門学群）の7名が参加し、餅田治之教授（生物資源学類）、直江俊雄准教授（芸術専門学群）の司会で、①大学による地域貢献プログラムとしてのマイスター育成講座の意義と現実について、②市民参加による授業形式の評価とポテンシャルについて、③大学と地域の協働について、の各テーマについて検討した。パネルディスカッションにより「マイスター育成講座は大学の知的資源を地域に還元する橋渡しの機能を持っている。」「大学が地域に開かれているということは市民にとって大きな意味がある。本プログラムは市民が地域の大学と付き合う入り口となった。」「市民が日常から離れ、自分らしい時間をもてるチャンスを与えることができ、また学生にとってはストレスなくインターンシップ授業を受けることができたのではないか。」「現代GPは単なる社会貢献というより、受講した市民による地域へのフィードバックという意味で、社会連携のプログラムであった。」などの意見が集約された。






















